

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社クラスタ		
事業所名	やぎあん(ユニット名:1階)		
所在地	仙台市太白区八木山南3-1-12		
自己評価作成日	令和5年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、昨年度まで感染対策として設けていました面会や外出などについての(わずかな)制限を、新型コロナ以前の状態に戻しています。入居者様やご家族様のご希望・ご要望に柔軟に応じ、以前の「いろいろなところへ出かける、地域に出かけるやぎあん」となっています。とはいえ、ご家族様が感染を心配されている方につきましては、お気持ちを最大限に伺いながら対応しています。手作りの食事にもこだわりを持ち、入居者様の好きな物、食べたい物をできるだけ提供するよう工夫しています。出前や外食も適度に取り入れ、「食べる楽しみ」を大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建て2ユニットのホームは、地下鉄東西線の八木山動物公園駅に近い商業施設や住宅地の中の一角に位置している。一人ひとりの思いを大切に、事業所の理念である「我がままに」を実践している。調理専門の職員が美味しい食事を提供し、食する楽しみや行ってみたいという希望があれば可能な限り支援している。家族から感謝の言葉が寄せられ、ホームは信頼されていることがうかがえる。管理者が認知症介護指導者であることから、地域からの介護の相談や市から講演の講師を依頼されることがあり、日頃の実践を伝えている。職員が働きやすい職場であるように、シフトの希望や資格取得のバックアップ等をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和5年12月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名:やぎあん)「ユニット名:1階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケアを意識して行なっています。	理念「我がままに」と今年の介護目標を、更衣室と事務所に貼り共有している。「小さなことからコツコツと」を掲げ、ケアがマンネリにならないように、見落としがちなることを慎重に、丁寧に、コツコツと実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や外気浴の際、挨拶を通し交流の場を提供しています。	日々のごみ収集場の掃除や、回覧板で町内会の情報を得ている。芋煮会に参加したり、街路樹の落ち葉を掃きながら挨拶をしている。八木山南小学校2年生の職場体験は、手紙のやり取りに変更して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症介護指導者のため、仙台市内での認知症関連の研修で、日頃の実践を伝えています。地域の住民からの認知症についての相談を受けることもあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域の方、地域包括支援センターの方々と情報交換・共有、意見交換などを行ない、より良いサービスに向けて話し合いをしています。	書面と対面で6回開催し、4月から制限なしでの面会対応になる等の連絡を家族に送っている。本人の体調が悪く不安を抱えていた家族に、医師の助言と24時間対応と看取り対応が出来ること話し、安心に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の介護支援専門員が、地域包括支援センターの職員と定期的に集まりをもち、情報交換を行なっています。生活保護の方がいらつしやるため、区の保護課とも連携を取っています。	2月に仙台市による「運営指導」(監査実地指導)があった。要介護度変更時にはケアマネジャーが窓口に出向くが、事故報告第一報等は殆んどオンラインでのやり取りである。市から認知症ケアの講師を依頼されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を受け、全職員が重要性を理解し、身体拘束のないケアを提供しています。	「身体的拘束適正化検討委員会」に運営者も参加し、3ヵ月毎に行っている。職員研修の「身体拘束」と「高齢者虐待」を別の日に分けて行うこともある。グレーゾーンの具体的な事例の話し合いも行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学んだことを意識し、日々のケアを行なっています。	センサーマットを使っている方が複数人いるが、離床の把握に限定し、話し合いながら適切な支援をしている。身体拘束と虐待の無いケアに取り組んでいる。職員アンケートを実施し、実態把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2階の入居者様では成年後見制度を利用している方はいないですが、1階の入居者様で利用している方がいるので(法定後見、任意後見とも)、制度を理解している職員もいます。(知識にややばらつきがある)			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、管理者から時間をかけて説明を行なっています。疑問や質問には丁寧にお答えし、不安のないように説明していました。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議の際、ご家族様と地域包括支援センターの方と意見交換しています。ご要望やご意見を伺っていました。入居者様からは、日頃の関わりの中からお希望・ご要望を伺ってケアにつなげるようにしています。	日常的に意見や要望を聞いて対応している。座椅子を愛用している方の立ち上がりが難しくなり、その様子を家族にも見てもらって話し合い、検討した結果本人の状態に合う椅子を購入し、安心安全な生活に繋がっている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は年1回～数回、管理者も年1回～数回、職員から様々な提案やアイデア、意見を聞く機会を設けています。	代表者と管理者は定期的に職員との面談の機会を設け、必要があれば再度面談することもある。介護も担うベテランの看護師がおり、頼りにされている。職員の提案で、福祉用具のスライディングボードを購入した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個別に面談を行ない、各職員の希望・要望に添うようにしています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が、個々の職員の能力や経験などに応じて、事業所内での研修や外部研修を受けられるようにしています。			
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が認知症介護指導者のため、他事業所の管理者や職員との交流の場を多く持つことができている。職員も仙台市の研修などで、個別のネットワーク作りができています。	管理者の「認知症介護指導者」活動から、同業者と個別のネットワークが出来、研修や受講者同士でのコミュニケーション作りになっている。精神科専門病院のデイケアと、運動に特化した通所リハ利用支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の気持ちにより添えるよう傾聴し、コミュニケーションを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さまの思いも大切にし、必要時には密に連絡させていただきながら、関わりを持っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、2階の入居者様ですが、実際に「通所リハビリ」を利用されている入居者様がいらっしゃいます。やぎあんで生活を完結させるのではなく、本人様の身体を動かす機会や気分展開の機会になっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	積極的なコミュニケーションを通し、信頼関係を持っていただけるよう日々努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際やお電話、1ヶ月に1度お送りしているご家族様等宛のお手紙にて、入居者様のご様子をお伝えしたり、情報の共有を行いながら日々支援しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様との会話やアセスメント情報から、ご本人様の望む環境、交流の場を提供したり、ご希望に近づいていけるよう日々努めています。	故郷をタブレットで検索し、旅行気分を味わっている。美容師の資格を持つ職員が入居者の髪をカットしている。毎年誕生日に街中の美容院に通っている方や、馴染みのエステのスタッフが訪ねてくる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意思の疎通が難しい入居者様同士の関わり合いの間に入ったり、一緒にできるレクリエーションなどを通して、孤立しないケアを目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された際には、ご家族様に「何かありましたらご相談ください」と伝えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様のお気持ちに、誠意を持って対応しています。ご本人様が望まれている生活に近づけるよう、常にご希望・ご要望を伺い、実践するよう努めています。	カレンダーに同居者の希望の「リクエストメニュー」を書き入れている。食器洗いや掃除等の得意分野を一緒に行い、本人の遣り甲斐になっている。表出が難しい方には、伝わり易く話したり表情や視線の動きで把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント情報やご本人様から伺った生活歴を職員全員が共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることに取り組んでいただく場を提供し、無理なくその方に合った「いきがい」につなげていけるようなケアに努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士の意見交換から、常に新しい情報を得て、共有し、ケアに活かしています。ご家族様や関係者とも共有し、介護計画に反映しています。	暫定のプランをモニタリングし、3～6か月の目標を実施しながら継続、或いは見直しを検討して介護計画を作成している。誤った物を口にする方が、他の方の食事や異食に繋がらないよう連携して見守りの配慮をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で日々の申し送りを行なうことで、情報共有でき、共通理解のもと、課題解決のための目標に沿ったケアを提供しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりの状態、状況、情報からの気づきを日々観察し、確認しながらその時のその方に合ったケアを提供していくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、2階の入居者様ですが、実際に「通所リハビリ」を利用されている入居者様がいらっしゃいます。やぎあんで生活を完結させるのではなく、本人様の身体を動かす機会や気分展開の機会になっています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療や訪問歯科の往診にて、体調面(身体面や精神面)の安心につながる支援ができています。	月2回入居者全員が訪問診療を受けている。2カ所の歯科の訪問診療もある。眼科や皮膚科、外科等の専門医は通院している。「受診記録」とタブレットで共有し、家族には電話で連絡している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様のちょっとした、いつもと違う異変に気づいた時点で看護師に報告し、適切な対応につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際にはご家族様同行させていただき、なるべく短期間で施設に戻るできるよう病院と話し合いを持っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時々入居者様の状態をご家族様に伝えることで、ご本人様とご家族様の思いに沿ったケアを実践できるように努めています。	「重度化における対応(看取り)指針と同意書」を明確化している。入居時に本人と家族に、重度化した場合の意向を確認している。死に対する職員の教育は、医療機関とホームの看護師の指導がある。今年度も看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通し、対処方法を学び、ケアに活かすことができています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行ない、方法を学んでいます。隣家や町内会など、近隣の方からの理解も得ており、協力体制を築くことができています。	日中火災想定訓練を2回実施している。観察者役の職員が役割を決め、感想や反省を話し合い次の訓練に活かしている。前年5月に夜間想定での訓練で、太白消防署からプロの視点でアドバイスをもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの尊厳を大切にし、声かけ(言葉かけ)をしています。人生の大先輩から学ばせていただいていることを意識しながら対応しています。	全員名字に「さん」付けで呼んでいる。恥ずかしい思いがある言葉という認識があり、「トイレ」という言葉は使わずに誘導している。居室には、必ずノックをして「失礼します」と声掛けしてから入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴や質問などのコミュニケーションから、ご本人様の意向を探り、自己選択・自己決定につなげるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やお気持ちを確認しながら、その方に合ったペースでお過ごしいただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容のお手伝いをしたり、時にはスタッフ側から洋服やメイクのアドバイス・助言をすることでよろ小原たこともありました。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューにお好みの食事を取り入れたり、入居者様と一緒に食事作りや盛り付けを行なうなど、食事に関しての楽しみを持っていただけるように支援しています。	調理専任職員が作る食事を提供し、入居者と一緒に餃子を作ったり食べる楽しみを大切にしている。手作りの肉まんは好評だった。HACCP(衛生管理手法)に基づき、衛生面に配慮し必要な措置を講じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに合った量や形態で提供することで、自力摂取にて食事をしていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけや介助を行なっています。ご自分でできる方、一部介助が必要な方、それぞれご自身でできる範囲を行なうことができるよう声かけを工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声がけや時間でトイレにご案内したり、できるだけ便座に座っていただき、排泄を促しています。	自立している方もいる。オムツをしている方でもトイレに誘う声がけをし「ハイ」という場合は連れて行き、出来るだけ便座での排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食品なども食物繊維の多い物を取り入れたり、水分量を多く摂っていただくよう意識すること、散歩などの歩行の機会をとれるよう促しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	無理のないようお誘いをしたり、「入りたい」というご希望をいただいた際にはお断りすることなくご希望のタイミングで入浴できるようご案内しています。	週2～3回の入浴支援をし、無理強いはしない。介助して欲しくないという希望の方には、さりげなく離れた所で見守りをしながらゆっくり入ってもらっている。菖蒲湯と柚子湯などで季節感を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状態をみてご本人様に声がけし、休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様ひとりひとりの既往歴を把握することで、使用している(服用している、貼用している、塗布している など)薬を理解せいでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常の会話から、趣味や得意なことを確認し、その方に合ったライフスタイルに潤いや生きがいにつながるよう支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様に協力を得て、外出ができています。会話やアセスメント情報から、ご本人様の行きたい場所にお連れするなど、工夫しています。	以前のような外出が出来るようになり、遠足行事を企画している。入居者の状態に合わせての外出や買い物支援している。近所の散歩や定義山、秋保、名所の花見、近隣に多く見られる神社巡りを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる範囲の金額を所持することで、買い物の楽しみを実現できています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望で、電話したい際などすぐに対応しています。手紙を書かれる方に対しては、はがきの購入の希望があった際に一緒に買いに行くこともありました。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整頓し清潔を保つこと、落ち着いた音楽を流したり照明の明るさに配慮しています。壁面に季節感のある作品を掲示し、居心地のいい環境作りを工夫しています。	フロアにあるクリスマスツリーや、サンタクロースの飾り付けが季節を感じさせている。本箱が置かれ本や週刊誌を自由に見ている。入居者が歌詞本を書いた作品を飾っている。防犯の為に、主要なところに防犯カメラを設置し、安全・安心に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりでゆっくりできるスペースを作ったり、気の合った方と同席で過ごすことができるスペース作り、それぞれその時の気分に合った場所で過ごせるようテーブルの配置など工夫しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物やご家族様との写真を飾ったりと、安心できる環境作りを心がけています。	自分の居室と分かり易いように、木製の表札がある。家族の写真やモデル時代の写真を飾っている。百歳を迎えた入居者が表彰され、総理大臣からの賞状や銀杯、県知事と市長からも祝福があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーの環境で、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫しています。ベッドでもひとりひとりに合ったサイドレールや移動バーを使ってもらうことで、自立支援につながっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社クラスタ		
事業所名	やぎあん(ユニット名:2階)		
所在地	仙台市太白区八木山南3-1-12		
自己評価作成日	令和5年11月22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和5年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、昨年度まで感染対策として設けていました面会や外出などについての(わずかな)制限を、新型コロナ以前の状態に戻しています。入居者様やご家族様のご希望・ご要望に柔軟に応じ、以前の「いろいろなところへ出かける、地域に出かけるやぎあん」となっています。とは言え、ご家族様が感染を心配されている方につきましては、お気持ちを最大限に伺いながら対応しています。手作りの食事にもこだわりを持ち、入居者様の好きな物、食べたい物をできるだけ提供するよう工夫しています。出前や外食も適度に取り入れ、「食べる楽しみ」を大切にしています。入居者様のご希望や状態に応じて、やぎあんだけで生活を完結させるのではなく、地域資源(医療保険で利用できるデイケアなど)も活用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建て2ユニットのホームは、地下鉄東西線の八木山動物公園駅に近い商業施設や住宅地の中の一角に位置している。一人ひとりの思いを大切にし、事業所の理念である「我がままに」を実践している。調理専門の職員が美味しい食事を提供し、食する楽しみや行ってみたいという希望があれば可能な限り支援している。家族から感謝の言葉が寄せられ、ホームは信頼されていることがうかがえる。管理者が認知症介護指導者であることから、地域からの介護の相談や市から講演の講師を依頼されることがあり、日頃の実践を伝えている。職員が働きやすい職場であるように、シフトの希望や資格取得のバックアップ等をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名:やぎあん)「ユニット名:2階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「わがままに」の施設理念を共有し、入居者様へのサービス提供を日々心がけ、ひとりひとりに合わせたケアに努めています。	理念「我がままに」と今年の介護目標を、更衣室と事務所に貼り共有している。「小さなことからコツコツと」を掲げ、ケアがマンネリにならないように、見落としがちなることを慎重に、丁寧に、コツコツと実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶の他、回覧板や地域のゴミ収集場所の清掃など、地域の取り組みに参加しています。	日々のごみ収集場の掃除や、回覧板で町内会の情報を得ている。芋煮会に参加したり、街路樹の落ち葉を掃きながら挨拶をしている。八木山南小学校2年生の職場体験は、手紙のやり取りに変更して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症介護指導者のため、仙台市内での認知症関連の研修で、日頃の実践を伝えています。地域の住民からの認知症についての相談を受けることもあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域の方、地域包括支援センターの方々と情報交換・共有、意見交換などを行ない、より良いサービスに向けて話し合いをしています。	書面と対面で6回開催し、4月から制限なしでの面会対応になる等の連絡を家族に送っている。本人の体調が悪く不安を抱えていた家族に、医師の助言と24時間対応と看取り対応が出来ること話し、安心に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の介護支援専門員が、地域包括支援センターの職員と定期的に集まりをもち、情報交換を行なっています。生活保護の方がいらつしやるため、区の保護課とも連携を取っています。	2月に仙台市による「運営指導」(監査実地指導)があった。要介護度変更時にはケアマネジャーが窓口に出向くが、事故報告第一報等は殆んどオンラインでのやり取りである。市から認知症ケアの講師を依頼されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の施設内研修で「身体拘束」のついて学び、職員全体で日頃より意識して取り組む環境ができています。	「身体的拘束適正化検討委員会」に運営者も参加し、3ヵ月毎に行っている。職員研修の「身体拘束」と「高齢者虐待」を別の日に分けて行うこともある。グレーゾーンの具体的な事例の話合いも行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の一説内研修で「虐待防止」について学び、意識付けしています。時に職員同士声を掛け合いながら注意を払い、日頃のケアに努めています。	センサーマットを使っている方が複数人いるが、離床の把握に限定し、話し合いながら適切な支援をしている。身体拘束と虐待の無いケアに取り組んでいる。職員アンケートを実施し、実態把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2階の入居者様では成年後見制度を利用している方はいないですが、1階の入居者様で利用している方がいるので(法定後見、任意後見とも)、制度を理解している職員もいます。(知識にややばらつきがある)			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、管理者から時間をかけて説明を行なっています。疑問や質問には丁寧にお答えし、不安のないように説明していました。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議の際、ご家族様と地域包括支援センターの方と意見交換しています。ご要望やご意見を伺っていました。入居者様からは、日頃の関わりの中からお希望・ご要望を伺ってケアにつなげるようにしています。	日常的に意見や要望を聞いて対応している。座椅子を愛用している方の立ち上がりが難しくなり、その様子を家族にも見てもらって話し合い、検討した結果本人の状態に合う椅子を購入し、安心安全な生活に繋がっている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は年1回～数回、管理者も年1回～数回、職員から様々な提案やアイデア、意見を聞く機会を設けています。	代表者と管理者は定期的に職員との面談の機会を設け、必要があれば再度面談することもある。介護も担うベテランの看護師がおり、頼りにされている。職員の提案で、福祉用具のスライディングボードを購入した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個別に面談を行ない、各職員の希望・要望に添うようにしています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が、個々の職員の能力や経験などに応じて、事業所内での研修や外部研修を受けられるようにしています。			
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が認知症介護指導者のため、他事業所の管理者や職員との交流の場を多く持つことができている。職員も仙台市の研修などで、個別のネットワーク作りができています。	管理者の「認知症介護指導者」活動から、同業者と個別のネットワークが出来、研修や受講者同士でのコミュニケーション作りになっている。精神科専門病院のデイケアと、運動に特化した通所リハ利用支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の気持ちにより添えるよう傾聴し、コミュニケーションを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さまの思いも大切にし、必要時には密に連絡させていただきながら、関わりを持っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、実際に「通所リハビリ」を利用されている入居者様がいらっしゃいます。やぎあんで生活を完結させるのではなく、本人様の身体を動かす機会や気分展開の機会になっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ひとりひとりに合わせた寄り添い方で、親身になり日々過ごしていただいています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族様それぞれの考えや気持ちを受け入れた上で、日々の関わりを持っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際に、馴染みの人と会うことや場に置くことが難しい場合でも、会話の話題を広げたりタブレットを利用して動画や音楽、地図などを見ていただくことで懐かしく楽しんでいただけるような工夫をしています。	故郷をタブレットで検索し、旅行気分を味わっている。美容師の資格を持つ職員が入居者の髪をカットしている。毎年誕生日に街中の美容院に通っている方や、馴染みのエステのスタッフが訪ねてくる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様ひとりひとりの特色を把握し、ひとりひとりを引き立てて上がられるように日々工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された際には、ご家族様に「何かありましたらご相談ください」と伝えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の今までの生活歴(バックグラウンド)や現在の状態をみて、できる限りひとりひとりに合った環境作りをしながら日々関わっています。	カレンダーに同居者の希望の「リクエストメニュー」を書き入れている。食器洗いや掃除等の得意分野を一緒に行い、本人の遣り甲斐になっている。表出が難しい方には、伝わり易く話したり表情や視線の動きで把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や日々のコミュニケーションの中での情報収集を常に行ない、把握したことは職員間で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとり異なった生活スタイルをお持ちであることを前提として、個別ケアを大切にしています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンス(職員会議)の他にも、日々介護に携わっている中で気づいたことがある都度、職員間で密に情報の共有を心がけています。	暫定のプランをモニタリングし、3~6か月の目標を実施しながら継続、或いは見直しを検討して介護計画を作成している。誤った物を口にしないよう連携して見守りの配慮をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録や申し送りを利用し、日頃情報の共有を行なうほか、日頃からのコミュニケーションも密に行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりの状態、状況、情報からの気づきを日々観察し、確認しながらその時のその方に合ったケアを提供していくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、2階の入居者様ですが、実際に「通所リハビリ」を利用されている入居者様がいらっしゃいます。やぎあんで生活を完結させるのではなく、本人様の身体を動かす機会や気分展開の機会になっています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度の主治医の訪問診療や、定期的な歯科の往診を受けています。体調不良などの緊急時仁摩看護師に報告し、主治医に連絡し、指示をもらうなどの対応をしています。	月2回入居者全員が訪問診療を受けている。2カ所の歯科の訪問診療もある。眼科や皮膚科、外科等の専門医は通院している。「受診記録」とタブレットで共有し、家族には電話で連絡している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が不在の時でも、入居者様に変化がみられた時には速やかに電話で報告・連絡し、適切な対応ができるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際にはご家族様同行させていただき、なるべく短期間で施設に戻ることができるよう病院と話し合いを持っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族さまや入居者様の要望に添いながら、ケアに携わっています。施設内での研修でも毎年度看取り介護について学ぶ機会があり、学んだことを活かしながらケアさせていただいています。	「重度化における対応(看取り)指針と同意書」を明確化している。入居時に本人と家族に、重度化した場合の意向を確認している。死に対する職員の教育は、医療機関とホームの看護師の指導がある。今年度も看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年度、内部研修で学び、大切なことの確認をしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を年2回実施しています。実際に火災が起きた時にどう避難するか、どう連携を取るかを確認しています。	日中火災想定訓練を2回実施している。観察者役の職員が役割を決め、感想や反省を話し合い次の訓練に活かしている。前年5月に夜間想定での訓練で、太白消防署からプロの視点でアドバイスをもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様ひとりひとりの性格などを把握し、日頃スタッフ間での情報共有をしながら楽しく過ごしてもらえるよう対応しています。(気分を害された言葉なども共有しています。)	全員名字に「さん」付けで呼んでいる。恥ずかしい思いがある言葉という認識があり、「トイレ」という言葉は使わずに誘導している。居室には、必ずノックをして「失礼します」と声掛けしてから入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、戸惑わないような範囲で、選んでいただける機会を作り、本人様の意思を表明できるようにしています。(食べたいもの、行事の内容を一緒に考える など)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様ファーストを意識し、外の空気を吸いたい、部屋でゆっくりTVを観たいなど、入居者様に合わせた個別ケアに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみ(洗面、整容、入浴など)を整えています。定期的に美容師による散髪もあり、また、行事の際にはお化粧品やマニキュアをする機会を設けておしゃれを楽しんでいただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様方の好みや希望を少しでも多く日常で取り込んでいけるように耳を傾け、日々のメニューに反映しています。入居者様と料理をする機会も設けています。(お好み焼き、パンケーキなど)	調理専任職員が作る食事を提供し、入居者と一緒に餃子を作ったり食べる楽しみを大切にしている。手作りの肉まんは好評だった。HACCP(衛生管理手法)に基づき、衛生面に配慮し必要な措置を講じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った量や形態を考えて食事提供しています。食事摂取量が少ない方には補食を提供したり少しずつ何回かに分けて提供する、食事時間をずらすなどの対応をさせていただきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアが難しい方も清潔を保つことができるよう、食後の口腔ケアを積極的にケアさせていただきます。歯科の往診も利用し、口腔環境を整えていただいています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄状況に合わせた排泄ケアを行なっている。失敗して気分が落ち込んでしまわないよう、寄り添い、安心していただけるよう声かけとケアに努めています。	自立している方もいる。オムツをしている方でもトイレに誘う声がけをし「ハイ」という場合は連れて行き、出来るだけ便座での排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分提供の工夫(1度にたくさん飲むことができない方には時間をみながらこまめに提供するなど)を行ない、便秘時にはその方に合った下剤等を服用いただき排便コントロールできています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入りたくないという希望があった場合にも、タイミングを変えて再度お誘いしたり、日にちを変えてご案内するなど入居者様のお気持ちを第一にしています。	週2~3回の入浴支援をし、無理強いはいらない。介助して欲しくないという希望の方には、さりげなく離れた所で見守りをしながらゆっくり入ってもらっている。菖蒲湯と柚子湯などで季節感を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか眠りにつけない様子の時は、過度な声かけはせず少し距離を取る、近くで寄り添いながら時間を過ごしてみるなど、対応を変えながら安心して休めるよう工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前、服薬中、服薬後と何度も重ねて確認し、確実に服薬していただけるように努めています。症状や状態の変化がある場合は速やかに看護師へ報告し、指示をもらって対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	細かい作業が得意な方、苦手な方、歌が好きなど、ひとりひとりの好みを把握し壁飾りなどの装飾作品作りや歌う機会を設ける、買い物などの外出に同行していただくなど日頃から取り組んでいます。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週刊誌を購入するために近所のコンビニに行ったり、日用品を近所のドラッグストアに買いに行くなどしています。ドライブで神社に出かけたり、遠足行事を企画し、いつもと違う場所へ出かける機会も作っています。	以前のような外出が出来るようになり、遠足行事を企画している。入居者の状態に合わせての外出や買い物を支援している。近所の散歩や定義山、秋保、名所の花見、近隣に多く見られる神社巡りを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本(雑誌)やお菓子の購入など、職員が付き添い、外出して買いに行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	心配事や気がかりがあり「電話したい」というご希望にも寄り添い、電話をつないで差し上げたり、お手紙を書かれた際にはきつての購入やポストへの投函までの支援を行っています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の好みに合わせて聴講したりテレビなどの音量を調整したり、環境に配慮しています。壁の装飾物は、入居者様と一緒に季節ごとに作成したものを飾っています。	フロアにあるクリスマスツリーや、サンタクロースの飾り付けが季節を感じさせている。本箱が置かれ本や週刊誌を自由に見ている。入居者が歌詞本を書いた作品を飾っている。防犯の為に、主要なところに防犯カメラを設置し、安全・安心に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置を考慮し、職員も仲介しながらひとりひとり過ごしやすい環境作りを行っています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使ってきた家具などを持ち込んでいただいたり、壁の飾りを好みに合わせて飾るなど、入居者様と居室担当職員とが話し合いながら配置・装飾しています。	自分の居室と分かり易いように、木製の表札がある。家族の写真やモデル時代の写真を飾っている。百歳を迎えた入居者が表彰され、総理大臣からの賞状や銀杯、県知事と市長からも祝福があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の整理整頓をしながら、安全面に配慮しながらの歩行できる環境を作っています。調理を手伝ってくださる際にも、常に職員が目配り気配りできるよう、職員1人はフロアにいます。		